

熊本県立劇場 伝承芸能調査事業 市町村別データベース(熊本市)

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
1	熊本市	本丸	肥後神楽	ひごかぐら	熊本県重要無形民俗文化財昭和35年4月22日	8月25日	健軍神社	一般に肥後神楽と称す神楽は、その内容に若干の異同はあるものの県北一帯に広く分布するが、この肥後神楽はその典型をなすものである。古くは各神社で舞手の養成に努めてきたが、昭和16年に神職による神楽会が結成され、現在は熊本市内及び近郷の神社の神職に伝承されている。「式神楽」に始まり、「真栄木」、「剣弓」、「二剣」、「長幣」、「宝剣」、「羽々矢」、「神宣歌」、「四剣」、「四方舞」、「国津」、「地鎮の舞」の12座がある。国津が仮面舞を含むほかは素面の舞で、衣装も変わらない。笛、太鼓の楽を基本とし、四剣、四方舞には鉦が加わる。【熊本県ありのままHP2005】現在は、熊本市周辺の宮司・サラリーマンによって継続されている神楽。【2001】	【伝統芸能】神楽	加藤神社 〒860-0002熊本市本丸2-1 096-352-7316 info@kato-jinja.or.jp		
2	熊本市	上南部町	肥後神楽	ひごかぐら	熊本市無形民俗文化財昭和50年2月26日	10月25日	上南部神社	上南部の乙姫神社(現・上南部神社)大祭の夜、社殿の中で奉納される神楽。【2001】 《演目》三座、禰、二幣、二剣、剣弓、宝剣、双弓、神饌歌、四剣、国津、地鎮。【1991】	【伝統芸能】神楽			
3	熊本市	硯川町	柚木神楽	ゆのきかぐら	熊本市無形民俗文化財平成4年3月26日	10月15日	柚木菅原神社	柚木神社秋祭りに行われる神楽。【2001】 《演目および構成》式神楽(1人舞)、真栄木(2人舞)、剣弓(2人舞)、二剣(2人舞)、二剣二弓(4人舞)、長幣(2人舞)、宝剣(1人舞)、神宣歌(2人舞)、双弓(2人舞)、四剣(4人舞)、国津(2人)、地鎮(1人舞)、誂い神楽(1人舞)。【1991】	【伝統芸能】神楽			
4	熊本市	松尾町平山	平山神楽	ひらやまかぐら	熊本市無形民俗文化財昭和50年2月26日	10月15日	平山神社	松尾北小の女子児童10人が15日夜、平山神社秋祭例大祭で神楽を奉納した。室町時代から続くとされている同神社の神楽奉納はこれまで男性のみで、女性の参加は初めて。平山神楽保存会が、最終日に奉納。例年男子児童は参加しているが、今年は児童数の減少などから女子にも参加を呼びかけ、7月末から練習。【2009.10.17熊日】 《演目》式神楽、真栄木、剣弓、二剣、長幣、宝剣、羽々矢、神宣歌、四剣、四方舞、国津、地鎮。【1991】	【伝統芸能】神楽			
5	熊本市	立福寺町	立福寺神楽	りゆうふくじかぐら	熊本市無形民俗文化財平成4年3月26日	10月15日	立福寺神社	立福寺の秋祭りの時、下組の菅原神社に奉納の際、行われる神楽。【2001】 《演目および構成》式神楽(1人舞)、真栄木(2人舞)、剣弓(2人舞)、二剣(2人舞)、二剣二弓(4人舞)、長幣(2人舞)、宝剣(1人舞)、神宣歌(2人舞)、双弓(2人舞)、四剣(4人舞)、国津(2人)、地鎮(1人舞)、誂い神楽(1人舞)。【1991】	【伝統芸能】神楽			
6	熊本市	河内町野出春	野出春日神社大神楽	のいでかすがじんじかぐら	熊本市無形民俗文化財平成4年3月26日	2月15日 4月1日 6月15日 9月20日頃 10月15日	野出春日神社	野出春日神社大祭の日、約6時間演舞する神楽。【2001】 《演目》神かぐら、あげ神楽、ほう剣、剣弓、二剣、して、うわや、四剣、歌神楽、国津、地かため。【1991】	【伝統芸能】神楽			
7	熊本市	河内町	白浜岩戸神楽		熊本市無形民俗文化財平成4年3月26日	10月15日	白浜神社	白浜神社例大祭が15日夜行われ地元の小学6年と中学1年の男児10人が、約480年の伝統ある神楽を奉納。同神社が創建した1530年頃、五穀豊穡や無病息災などを祈願して舞われたのが始まりとされる。白浜地区の小学3、4年生10人が中学3年、高校1年になるまでの7年間、メンバー交代なしに務めるのが特徴。役目を	【伝統芸能】神楽			五穀豊穡 無病息災
8	熊本市	河内町大多尾	大多尾大神楽	おおたおおおかぐら	熊本市無形民俗文化財平成4年3月26日	1月15日 3月15日 5月15日 10月15日	大多尾日吉神社	秋祭りなど年6回大多尾日吉神社に奉納される神楽。【2001】 《演目および構成》がんしゅ(1人舞)、初剣(1人舞)、二剣(2人舞)、禰(2人舞)、して(2人舞)、四剣(4人舞)、三方(1人舞)、弓(2人舞)、歌神楽(1人舞)、剣弓(2人舞)、国津(2人舞)、納神楽(1人舞)。【1991】	【伝統芸能】神楽			
9	熊本市	河内町船津	尾跡十禅寺楽	おあとじゅうぜんじがく		9月15日頃	尾跡公民館	《特色》笛7人、太鼓方4人、三味線5人、踊り4人で構成される。先頭には白狐が立つ。昔は雨乞いで行われた。【1991】				
10	熊本市	奥古閑町下沖津	銭太鼓踊り	ぜにだいきおどり	熊本市無形民俗文化財平成4年3月26日	8月上旬 8月中旬	町民グラウンド 下沖津公民館	《構成》大太鼓(外バチ2人、中バチ1人)、笛10人、鉦1人、銭太鼓は多いほど良い。《特色》銭太鼓とは竹筒に銭を入れたもの事。大太鼓は加藤清正から下賜されたものと伝えられる。【1991】	【伝統芸能】 風流芸	天明支所 096-223-1111		

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
11	熊本市	八幡大渡町	川尻大渡獅子舞			10月19日	川尻神宮	川尻神宮秋季例大祭で大渡獅子保存会が披露。「腰乗せ」(肩乗せ)など大技を披露。【2008.10.20熊日】 《演目》普通の舞、荒獅子(狂い獅子)、スッケンギョ、花舞、(花噛み)。《特色》天明8年(1788)に大渡の徳左衛門が八代での事故が相次いだため、大渡上組みて、氏神である川尻神宮に奉納した				
12	熊本市	無田口町	無田口の獅子舞			10月17日	浜田阿蘇神社	《演目》雄雌の宮参り、雄獅子の舞、雄雌両獅子の舞、雌獅子の舞、雄雌両獅子が牡丹を争う舞、雄獅子の舞。《構成》雄獅子・雌獅子(ともに2人立ち、但し、後の雄獅子の舞の時は3人立ちで、肩車をして頭に2人が入る)、太鼓2、笛3。【1991】				
13	熊本市	新町	新町の獅子舞	しんまちのししまい		9月11日 9月15日	藤崎八幡宮	《演目》天拝の舞、奉納の舞。《構成》雄・雌獅子(ともに二人立ち)、つり子120~130人、太鼓1人、ドラ1人、笛10人。【1991】		保存会	藤崎宮	
14	熊本市	飽田町	肥後神楽	ひごかぐら		7月18日	浜田神社	《演目》式神楽、真栄木、剣弓、二剣、長幣、宝剣、羽々矢、神宣歌、四剣、四方拝、国津、地鎮の舞。《特色》肥後神楽の系統の神楽は、氏子が舞っているが、ここだけは神職により伝承されている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
15	熊本市	松尾町	肥後神楽	ひごかぐら		7月21日	綿津見神社	《演目》式神楽、真栄木、剣弓、二剣、長幣、宝剣、羽々矢、神宣歌、四剣、四方拝、国津、地鎮の舞。《特色》肥後神楽の系統の神楽は、氏子が舞っているが、ここだけは神職により伝承されている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
16	熊本市	小島町	肥後神楽	ひごかぐら		7月23日	小島阿蘇神社	《演目》式神楽、真栄木、剣弓、二剣、長幣、宝剣、羽々矢、神宣歌、四剣、四方拝、国津、地鎮の舞。《特色》肥後神楽の系統の神楽は、氏子が舞っているが、ここだけは神職により伝承されている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
17	熊本市	健軍町	肥後神楽	ひごかぐら		8月7日	健軍神社	《演目》式神楽、真栄木、剣弓、二剣、長幣、宝剣、羽々矢、神宣歌、四剣、四方拝、国津、地鎮の舞。《特色》肥後神楽の系統の神楽は、氏子が舞っているが、ここだけは神職により伝承されている。【1991】	【伝統芸能】 神楽	健軍神社		
18	熊本市	井川淵町	肥後大神楽	ひごおおかぐら		9月11日	藤崎八幡宮	《演目》式神楽、真栄木、剣弓、二剣、長幣、宝剣、羽々矢、神宣歌、四剣、四方拝、国津、地鎮の舞。《特色》肥後神楽の系統の神楽は、氏子が舞っているが、ここだけは神職により伝承されている。【1991】	【伝統芸能】 神楽	健軍神社内		
19	熊本市	画図町	肥後神楽	ひごかぐら		9月24日	下江津菅原神社	《演目》式神楽、真栄木、剣弓、二剣、長幣、宝剣、羽々矢、神宣歌、四剣、四方拝、国津、地鎮の舞。《特色》肥後神楽の系統の神楽は、氏子が舞っているが、ここだけは神職により伝承されている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
20	熊本市	画図町	肥後神楽	ひごかぐら		9月25日	重富菅原神社	《演目》式神楽、真栄木、剣弓、二剣、長幣、宝剣、羽々矢、神宣歌、四剣、四方拝、国津、地鎮の舞。《特色》肥後神楽の系統の神楽は、氏子が舞っているが、ここだけは神職により伝承されている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
21	熊本市	水前寺	肥後神楽	ひごかぐら		10月19日	出水神社	《演目》式神楽、真栄木、剣弓、二剣、長幣、宝剣、羽々矢、神宣歌、四剣、四方拝、国津、地鎮の舞。《特色》肥後神楽の系統の神楽は、氏子が舞っているが、ここだけは神職により伝承されている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
22	熊本市	竜田町	肥後神楽	ひごかぐら		10月22日	片彦瀬菅原神社	《演目》式神楽、真栄木、剣弓、二剣、長幣、宝剣、羽々矢、神宣歌、四剣、四方拝、国津、地鎮の舞。《特色》肥後神楽の系統の神楽は、氏子が舞っているが、ここだけは神職により伝承されている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
23	熊本市	黒髪町	肥後神楽	ひごかぐら		10月24日	宇留毛菅原神社	《演目》式神楽、真栄木、剣弓、二剣、長幣、宝剣、羽々矢、神宣歌、四剣、四方拝、国津、地鎮の舞。《特色》肥後神楽の系統の神楽は、氏子が舞っているが、ここだけは神職により伝承されている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
24	熊本市	竜田町	肥後神楽	ひごかぐら		10月27日	小坂阿蘇神社	《演目》式神楽、真栄木、剣弓、二剣、長幣、宝剣、羽々矢、神宣歌、四剣、四方拝、国津、地鎮の舞。《特色》肥後神楽の系統の神楽は、氏子が舞っているが、ここだけは神職により伝承されている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
25	熊本市	植木町米塚字加村	加村阿蘇一の宮神社 奉納獅子舞		植木町無形民俗文化財 昭和45年5月10日	1月10日	加村阿蘇一の宮神社	4人組で操る長さ約4mの雌雄の2頭が、笛や太鼓の音色に合わせて舞い踊った。五穀豊穡や無病息災を祈る伝統行事。10日は1年間獅子を預かってきた「ウケマエ」と呼ばれる当番の家を出発し、地元の加村阿蘇一宮神社に参拝し、新しいウケマエまで舞いながら向かった。【2010.1.13朝日】 構成⇒雄獅子・雌獅子(ともに2人立)、三味線5人、大太鼓1人、小太鼓1人、笛5人、拍子木2人、節頭1人、注連縄持ち2人。特色⇒節頭渡しの儀がお宮であった後、獅子舞は節頭の家を出て、神社で社殿を一周した後、新節頭の家まで行く。【1991】 加村阿蘇一宮神社で行われている神事。【2001】	祭礼 (神社行事)			
26	熊本市	植木町轟字埋原	埋原の亀踊り	うつばるのかめおどり	植木町無形民俗文化財 昭和48年8月20日	不定期		鹿本地区での県民文化祭・町生涯学習センターの落成式等2~3回披露されている。【2001】 《構成》亀の担い手約30人、首使い1人、口の開閉2人、拍子木2人、笛12人、三味線5人、女踊り30~40人、浦島太郎1人(亀の背中に乗る役)。《沿革》慶長年間に雨乞いのために始めたという。【1991】				
27	熊本市	植木町清水	清水菅原神社神楽		植木町無形民俗文化財 昭和45年5月10日	1月7日 11月25日	清水菅原神社	演目および構成⇒神舞(2人舞)、参舞(1人舞)、二剣舞(2人舞)、御幣舞(2人舞)、長幣舞(2人舞)、四剣舞(4人舞)、神選歌(1人舞)、弓舞(2人舞)、剣弓舞(2人舞)、仁天舞(2人舞)、地固め(2人舞)。特色⇒明治初期に熊本市内の神社から習ったという。阿蘇神楽の流れを汲むという。【1991】 阿蘇流といわれている。年2回奉納されている。【2001】	【伝統芸能】 神楽			
28	熊本市	植木町石川字石川	石川菅原神社神楽		植木町無形民俗文化財 昭和45年5月10日	11月29日 12月10日	石川菅原神社 石川権現宮	演目および構成⇒神舞(2人舞)、散米(1人舞)、剣弓(2人舞)、幣舞(2人舞)、弓舞(2人舞)、四剣舞(4人舞)、長幣舞(2人舞)、うたまい(1人舞)、鬼典舞(2人舞)。特色⇒文久元年(1861)の紀年の道具箱がある。阿蘇神楽系統の神楽という。【1991】 石川菅原神社の秋祭りと同境内に祀る熊野座神社の祭りに奉納されている。【2001】	【伝統芸能】 神楽			
29	熊本市	植木町辺田野字上原	辺田野熊野座神社神楽		植木町無形民俗文化財 昭和52年12月6日	11月5日	辺田野熊野座神社	西里村立福寺より伝えられた神楽という。11月15日の例祭に奉納されている。【2001】 《演目および構成》三座(1人舞)、櫛の舞(2人舞)、二剣の舞(2人舞)、宝剣の舞(1人舞)、長幣(2人舞)、双弓(2人舞)、剣弓の舞(2人舞)、神せん歌(1人舞)、四剣の舞(4人舞)、国津(2人舞)、じついん(1人舞)。《由来》北部町立福寺から約70年前に伝えられたという。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
30	熊本市	植木町米塚字加村	加村阿蘇一の宮神社 神楽		植木町無形民俗文化財 昭和53年12月7日	1月10日 3月15日 10月10日	加村阿蘇一の宮神社	演目および構成⇒奉剣(1人舞)、櫛(2人舞)、参舞(1人舞)、仁平(2人舞)、四剣(4人舞)、弓(2人舞)、神せん歌(2人舞)、剣弓(2人舞)、仁天(3人舞)、清弘(1人舞)。【1991】 阿蘇流の神楽といわれている。平成12年から休止中。【2001】	【伝統芸能】 神楽			
31	熊本市	植木町大井	大井菅原神社神楽		植木町無形民俗文化財 昭和58年1月12日	3月15日 10月6日	大井菅原神社 大井熊野座神社	演目および構成⇒神舞(2人舞)、仙舞(1人舞)、長幣舞(2人舞)、弓舞(2人舞)、四剣舞(4人舞)、歌舞(1人舞)、弓剣舞(2人舞)、二天舞(2人舞)、神主舞(1人舞)。沿革⇒明治15年頃山本地区(植木町)から伝えられたという。【1991】 明治初期頃、山本地区より習得した神楽舞を受け継いだもの。【2001】	【伝統芸能】 神楽			
32	熊本市	植木町亀甲	亀甲東祇園神社神楽		植木町無形民俗文化財 昭和62年10月20日	1月15日 4月14日 9月19日 11月15日 11月29日	菱形八幡宮 亀甲東祇園神社 亀甲東祇園神社 轟神社 加茂別雷神社	演目および構成⇒神舞(2人舞)、参拝舞(1人舞)、長幣舞(2人舞)、弓舞(2人舞)、四剣舞(4人舞)、歌舞(1人舞)、弓剣舞(2人舞)、二天舞(2人舞)、一剣舞(1人舞)。沿革⇒明治21年に北原地区(植木町)から習ったという。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
33	熊本市	明徳町	明徳神楽	めいとくかぐら	熊本市民俗文化財 平成4年3月26日	11月15日	熊野神社	《演目および構成》式神楽(1人舞)、真柴木(2人舞)、剣弓(2人舞)、二剣(2人舞)、二剣二弓(4人舞)、長幣(2人舞)、宝剣(1人舞)、神宣歌(2人舞)、双弓(2人舞)、四剣(4人舞)、国津(2人)、地鎮(1人舞)、祓い神楽(1人舞)。【1991】	【伝統芸能】 神楽			

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
34	熊本市	春日町	肥後神楽	ひごかぐら			北岡神社		【伝統芸能】 神楽			
35	熊本市	川尻町	肥後神楽	ひごかぐら			川尻若宮神社		【伝統芸能】 神楽			
36	熊本市	天明町	銭じゃこ踊り									
37	熊本市	熊本市域	小堀流踏水術	こぼりりゅう すいとうじゅつ	熊本県指定文化財 芸能 昭和51年8月24日			肥後藩では歴代藩主が武用として游泳を奨励した。宝永年間(1704～11)藩士村岡伊太夫は泳ぎの奥義を究め、その子小堀長順は父の跡を継いで泳ぎの師範となり、明和8年(1771)に没するまで藩士を指導。宝暦6年(1756)父伊太夫の泳ぎを後世に残すため『踏水訣・水馬千金篇・水練早合点』を出版。水泳書としてわが国最古の本である。長順を初代師範として池部弥八郎、山東彦右衛門、能勢熊之允、小堀清左衛門、猿木宗那、小堀平七、城義核、広吉寅雄、現10代猿木恭経に至る。5代小堀清左衛門は水翁と号し、泳ぎ方も深く広く研究しいろいろの泳ぎをまとめて残した。明治以降白川傘淵稽古場を基地に、県下各地に稽古場を開き一般の子弟に泳ぎを指導したので流風大いに振るい門弟1万人と称した。6代猿木宗那は明治30年代に弟小堀平七を学習院に、弟城義核を京都武徳会に、弟西村宗系を長崎に派遣して指導させ、また近代的団体訓練の指導書『小堀流踏水術游泳教範』を出版、全国的に広がり、現在も京都、学習院、長崎に残っている。立ち泳ぎを特徴とし、足撃、手繰遊、早抜遊、立遊、潜泳、浮身、御前遊、抜手遊、浮遊などがある。大正3年(1914)と昭和40年(1965)に長崎県島原一玉名郡長洲間に有明海横断遠泳を敢行した。なお、保存会では、毎年夏休み期間中に児童・生徒を対象とした古式泳法の講習会を実施している。【熊本県ありのままHP2005】		【連絡先】 熊本市教育委員会 文化財課 熊本市手取本町1-1 TEL096-328-2740		
38	熊本市	熊本市域	武田流(細川流)騎射流 鎗馬	たけだりゅう(ほそかわりゅう)きしやぶさめ	熊本県指定文化財 芸能 昭和50年3月24日		出水神社	流鎗馬は、幅約9m、長さ約220mの馬場に、55m～73m間隔で3個の的を置いて、疾走する馬の上から次々に鎗矢(空中を飛ぶとき高い音をたてる)を射る古武術であり、平安末期から鎌倉時代に武士の間で盛行した。その歴史は古く、文徳天皇(851～859)の皇子能有公に始まると伝えられ、その後、源家7代を経て、武田、小笠原両氏に伝えられた。武田流は、武田家最後の信直(細川藤孝の甥)から、細川藤孝(幽哉・1534～1610)及び忠興(三音・1563～1645)に伝えられ、第3代忠利が小倉から肥後に移封(1632)された後、家臣の竹原小左衛門(市蔵)惟成に授与継承されて現在に至っている。なお、藩校時習館では、二条流和歌礼法とともに必修科目であった。【熊本県ありのままHP2005】		熊本市大江1丁目28-22 竹原方		
39	熊本市	大江	肥後ちよんかけ	ひごちよんかけ	熊本県指定無形民俗文化財 昭和50年2月26日			皿状の木ごまを、両手に持った紐に乗せて回転させる遊び。 【2001】				
40	熊本市	井川淵町	藤崎宮例大祭	ふじさきぐうれいたいさい			藤崎八幡宮					
41	熊本市	上護藤町	雨乞い大太鼓	あまごいおおたご		11月3日	会富町	2001年、保存会発足。メンバー約14人が大太鼓、小太鼓、棒を持った踊り手に分かれ、勇壮なばちさばきと軽快な踊りを見せる。【2006.11.4.熊日】		保存会		

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
42	熊本市	細工町	奇習・すり鉢舞い	きしゅうすりばちまい		11月	細工町通り 五福まちづくり交流センター	五福町風流街浪漫フェスタで舞われる。地元神社古くから伝わる奇習。神主役の2人が、頭にすり鉢をかぶり、白塗りの顔に袴姿で登場。酒を振る舞いながら商売繁盛、家内安全を祈願して、通りを練り歩く。すり鉢舞い総踊りには、五福小児童がボール紙で作ったすり鉢をかぶり、祭りを盛り上げる。【2006.11.20.熊日】				
43	熊本市	銭塘町	雨乞い太鼓引き	あまごいだいこひき		10月15日	新開大神宮	30年ぶりの復活。銭塘小の児童らでつくる銭塘太鼓クラブ24人が30年ぶりに太鼓引きを復活させた。台車に載せた約1トンの大太鼓を引きながら校区内を約2キロ歩き、新開大神宮(内田町)で奉納太鼓を披露。同神宮秋季例大祭。同地区では五穀豊穡を願い、戦前から「雨乞い太鼓」を引いて歩く風習が伝わっていた。【2006.10.16熊日】		銭塘太鼓クラブ		五穀豊穡
44	熊本市	植木町山本地区	正院宮祭り			11月	正院厳嶋神社	1388年建立された神社。奈良時代には役所があったとされ、地区は神社を中心に栄えたという。もともとは氏子の祭りで座と呼ばれる地区ごとに作った花火を奉納するのが習わしという。神社の境内には手作りの竹灯籠が飾られ、地元の女性たちや消防団、青年部、子供の会の保護者などによる手料理の出店も並ぶ。住民たちは踊りや歌を楽しみ、打ち上げ花火や仕掛け花火の奉納で祭りを締めくくる。【2006.11.23.熊日】				
45	熊本市	植木町亀甲東	十五夜の綱引き	じゅうごやのつなひき		1月8日	亀甲東地区広場	この地区に数百年前から伝わる正月伝統行事。住民約120人が五穀豊穡と無病息災を願い、大綱を引き合う。地元によると昔は子どもたちが各農家から稲藁をもらって編み、1月15日夜に引き合っていたが、今は「成人の日」に実施。子どもが少なくなっているため、大人も交えて行事を続けているという。大綱は長さ20数メートルで現在は約10年に一度編むという。中央部分の太さは直径約30センチ。大綱を持ち上げる約30本のがぶり綱と両端に6本ずつ引き綱がある。住民たちは大綱に二礼二拍手一礼し、お神酒や野菜、米などを奉納。太鼓の合図でがぶり役の大人たちが綱を何度も高く持ち上げて地面にたたきつけると、二手に分かれた住民たちは白い息を吐きながら綱を引き合う。【2006.1.9.熊日】				五穀豊穡 無病息災
46	熊本市	植木町	小町まつり	こまちまつり		10月22日	小野泉水公園	小野泉水は、小町が産湯を使ったとの伝説があり、町と同祭り実行委員会が毎年開いている。平安時代の雅な装束を身にまとった「小野小町平安絵巻行列」が公園内を練り歩く。行列は、約80人の公家衆と主役の小町娘、童女からなる。小町娘は、コスモスが咲き乱れる公園中央で小野小町の歌を読み上げる。【2006.10.23.熊日】				
47	熊本市		肥後にわか	ひごにわか								
48	熊本市	御幸苗田町	苗田神社例大祭	ふえだじんじゃれいた いさい		10月22日	苗田神社	地元の幼児や小学生らによる稚児行列があり、3キロを練り歩く。親子連れら約70人が参加。大太鼓や神輿を載せた台車を引きながら約2時間かけて歩く。踊りも披露。【2006.10.24.熊日】				
49	熊本市	高橋町	だんだら提灯行列	だんだらちようちんぎよ うれつ		8月13日夜	西部老人生きがい作業所～埤井川河川敷	地域に伝わる盆の伝統行事。子どもたち約100人が小さな提灯や野菜をくりぬいた提灯を手に町内を練り歩く。旧盆の時期に先祖を迎え入れるため提灯を下げて歩いている。午後7時半に出発。浴衣姿の子どもたちがそれぞれ提灯を手に「だんだら提灯と一歩した キツネの嫁入り イタチのな一かだち」と歌いながら家々の間を縫って30分程度歩く。【2006.8.15.熊日】		高橋まちおこしの会		
50	熊本市	本丸	新春能	しんしゅんのう		1月3日	熊本城本丸御殿	金春流松融会による羽衣【2013.1.4読売】	【伝統芸能】 風流芸			

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
51	熊本市	中央区水前寺公園	出水神社薪能	いずみじんじやたきぎのう		8月4日	出水神社	1960年に始まり、金春松融会が毎年奉納。神事「芝踏之儀」に続き、仕舞「高砂」「羽衣」「蟬丸」「熊坂」で幕開け。舞囃子「養老」、狂言「素袍落」が披露。夕闇が迫ると本殿で起こした火を薪に移す「火入之式」があり、能「清経」が奉納された。「清経」は、源平合戦に敗れ、海に身を投げた平清経の霊が、帰りを待つ妻の元に現れて胸中を伝える物語。【2012.8.5熊日】	【伝統芸能】 風流芸			
52	熊本市	熊本市中心部	城下町くまもと時代絵巻	じょうかまちくまもとじたいえまき		4月7日	熊本市交通センター前市道	時代衣装で熊本市中心部を練り歩く。29日出陣式。企業や市などで行く実行委が企画。馬に乗った清正が約200人の甲冑武者隊を引き連れて行列する。熊本交通センター前の市道で約500人による清正を迎える町衆の踊りがある。7日正午に中央区本山の白河河川敷を「出陣」。新町などを通り、午後3時に熊本城二の丸広場に到着する。【2013.3.30熊日】				
53	熊本市	熊本県立劇場	人形浄瑠璃八陣守護城	にんぎょうじょうりはちじんしゅこのほんじょう		3月27日	熊本県立劇場	加藤清正の最晩年の活躍を描いた文楽(人形浄瑠璃)が熊本で初上演。江戸時代初演の大作。秀吉の死後、世継ぎの秀頼を助けながら、豊臣家に忠誠を貫く清正の姿を描く。前年5月、東京・国立劇場で32年ぶりに上演。清正誕生450年を記念し、まちづくり団体などで行く実行委による。「八陣守護城」のうち「浪速の入江の段」「正清本城の段」の2本を上演。続いて「傾城阿波鳴門」の「巡礼歌の段」も上演。【2013.3.28熊日】	【伝統芸能】 風流芸			
54	熊本市	本丸	人形浄瑠璃八陣守護城	にんぎょうじょうりはちじんしゅこのほんじょう		1月29日	熊本城本丸御殿	熊本県立劇場での公演を前に熊本城本丸御殿で清正文楽を披露。【2012.1.30西日本】	【伝統芸能】 風流芸			
55	熊本市	中央区新町	古城堀端あそびかい	こじょうほりばたあそびかい		12月22日	料亭新茶屋	衰退しつつある郷土のお座敷文化を残そうと、県内の芸能関係者らでつくる「お座敷文化保存会」が2002年から毎年開いている。あや子の会、風姿会、東雲座、座・団子原Sの4団体が出演。【2012.12.23熊日】		お座敷文化保存委員会		
56	熊本市	西区上代	肥後神楽	ひごかぐら		11月4日	上代阿蘇神社	創建570年記念事業として、大神楽が奉納。境内に、幹回り8.1m、樹高26mのクスノキの巨木がある。その神木に守られるように建つ神殿で、神事や神楽の奉納などが行われる。市内の神職などで行く肥後神楽会により伝承されているもので、舞手4人を含む総勢6人で約10座を舞う。20年ぶりの神楽の奉納となる。【2012.11.3西日本】				
57	熊本市	南区八幡	さがり馬	さがりうま		10月19日	川尻神宮	川尻神宮秋季大祭。飾り馬に勢子がぶら下がり参道を駆け抜ける。同、祭りは、1197年の神宮創建当時から続くとされ、五穀豊穡に感謝して開催。地元の川尻地区を除く14の氏子地区が、輪番で奉納行事を取り仕切る「年行事」を務める。今年の中緑地区の担当で、5頭の飾り馬を奉納した。おはらいを受けた奉納馬は神殿を3周した後、参道に設けられた約150mの馬場へ。15人の勢子が、馬のたてがみに編み込んだ手綱と馬具のひもにつかまり次々と疾走。疾走する馬と、振り落とされないよう必死にしがみついた勢子の人馬一体の妙技に拍手が送られた。大祭は20日夜に提灯行列、21日にさがり馬や流鏝馬がある。【2012.10.20熊日】				五穀豊穡
58	熊本市	南区内南町	沈目の大蛇踊り	しずめのだいやおどり		10月28日	塚原古墳公園	恒例の火の君まつりで昨年復活した。同町沈目地区に伝わる大蛇踊りは、江戸末期に雨乞い祈願として始まったとされる。旧町時代の町無形民俗文化財で、踊り手不足から、1995年の上演を最後に途絶えていた。2010年3月の熊本市との合併を機に地元で伝統を守ろうと保存会を結成、復活した。【2012.10.29熊日】				

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
59	熊本市	西区松尾町近津	火の神祭り	ひのかみまつり		10月14日	鹿嶋宮	燃え盛る木の枝を投げ合う。近年、地域の高齢化で担い手が不足し、存続の危機に立たされている。地元では伝統の祭りを絶やすまいと昨年、実行委員会が発足。その昔、近津は貿易港として栄えた。祭りは今から1100年ほど前、朝鮮半島の新羅の海賊が来襲した際、村人が松明を投げて応戦した故事に由来するという。神事を終えた午後9時頃、シイの枯れ枝に火がつけられ、炎の攻防戦が幕を開ける。攻め手は年長の消防団員20人。長さ2mほどの燃え盛る枝を拝殿に向かって投げ、防火服に頭巾姿の若手団員が拝殿を死守する。シイの枝減少や担い手不足等祭りの存続に危機感を抱き、実行委員会を設立。今後、地区以外から守り手などの若者をボランティアで募集し、祭りの様子を撮影したDVDを販売するなどして資金確保に努めたい考え。【2012.10.22熊日】				
60	熊本市	植木町米塚	竜舞(加村の獅子舞)	りゆうまい	植木町指定無形民俗文化財	1月10日	加村阿蘇一宮神社	神社の例祭で奉納。獅子舞は、竜のような長い胴(長さ約5m)を持つことから、「竜舞」とも呼ばれる。この日は、小雪がちらつく中、獅子頭に一人、胴に三人が入った雌雄二頭が境内に現れ、笛や太鼓の音に合わせて、胴をくねらせながら踊り進んだ。地元の小学生による二頭の子供竜も後に続き、荒々しい舞を見せた。【2009.1.11読売】				
61	熊本市	本丸	くまもとお城まつり	くまもとおしろまつり		1月1日	熊本城二の丸広場	冬のくまもとお城まつり。大衆演劇役者の玄海竜二さんによる創作舞台「清正公新春の言祝ぎ」などの多彩なイベントが開催。流鏝馬や鉄砲の演武など熊本城を築城した加藤清正の新春儀式が再現される。【2008.12.31西日本】				
62	熊本市	植木町山本地区	神楽	かぐら		11月19日	正院厳島神社	長い間所蔵されていた鬼面が復活。夜、同神社の秋の大祭でこの面を使った神楽が50年ぶりに奉納された。鬼面は1937年9月～42年2月に戦地に赴いた地元男性が復員した記念に同神社に寄贈。大祭の神楽などで使われていたが、地元の舞手や笛、太鼓の奏者がいなくなり、50年以上使われないまま保管されていた。その後しばらくは、近隣の西山地区に頼んで同地区に伝わる神楽を奉納していたが、昭和40年代後半からは神楽の奉納そのものも途絶えていたという。そのため氏子らが今年、地域の伝統行事を子どもたちや住民に伝えていこうと、神社内にあった鬼面を修復。踊りは近くの清水甲区神楽保存会に依頼した。住民らは荒ぶる神の復活に大喜び。【2008.11.23熊日】				
63	熊本市	市内中心部	火の国YOSAKOIまつり	ひのくによさこいまつり		10月18日 10月19日	二の丸公園 辛島公園 下通りアーケード	第2回火の国よさこい祭り。子どもから大人まで県内外から計約2000人が参加し、各会場で思い思いのよさこいを音楽に合わせて踊った。踊り手たちは鼻筋に白線の化粧をし、個性的で華やかな衣装に身を包んで登場。民謡のフレーズを使いながらもロックやサンバ、歌謡曲風とさまざまにアレンジした曲調ののって威勢良い踊りを披露。【2008.10.20毎日】				
64	熊本市	八幡町	風流	ふりゆう		10月19日	川尻神宮	川尻神宮秋季例大祭にて、神殿にて、平安時代に舞楽を起源に始まった舞の一つ、風流を風流舞式保存会の川尻小児童9人が奉納。【2008.10.20熊日】				

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
65	熊本市	並建町・白石町	並建雅楽会	なみたてががくかい			結婚式 神社例大 祭	熊本市並建町や白石町などの住民でつくる雅楽の演奏グループ「並建雅楽会」は約120年の伝統を持つ。メンバーは、元会社員や農家ら17人。平均年齢は約70歳だが、市内外の結婚式や神社の例大祭などで演奏するかたわら、地元児童との交流など後継者育成にも力を注ぎたいと張り切っている。雅楽は、三管と呼ばれる笙、箏、篳篥が基本構成。装飾をあしらった楽太鼓などが加わる。同会は1890年ごろ、地元の長寿寺の門徒が雅楽を演奏し始めたのが発足のきっかけ。以来、寺院での法要や藤崎八幡宮の大祭などで演奏してきた。式の規模に応じ3〜7人で演奏するが、演奏回数は多い人で年間50回にもなるという。同会が今後力を入れたいと考えているのが、若い世代との交流。かつては、年間を通じ地元の飽田西小児童に演奏を教えたり、同市飽田、天明地区の小中学校を巡回演奏したりしたが、ここ数年途絶えているという。そんな中、飽田西小4年15人がこのほど、総合学習で同会に一日入門。同会の歴史や三管の演奏を学んだ。【2008.8.2熊日】				
66	熊本市	健軍本町	花の薪能	はなのたぎのう		4月6日	健軍神社	県内を中心に活動する能楽団体・喜多流喜秀会による恒例の「花の薪能」が健軍神社であり、散り始めの桜の下で優美な舞台が繰り広げられた。境内の桜の木を背景に、舞台を特設。連吟や仕舞、狂言に続き、能「清経」が披露された。源平の合戦に敗れ、海に身を投げた平清経の霊が、妻の枕元に現れて苦渋に満ちた胸中を語るあらずし。時折、花が舞う中、かがり火に照らされた舞台に幻想的な姿が浮かび上がり、約500人の観客が静かに見入っていた。【2008.4.7熊日】				
67	熊本市	南区城南町	城南火の君太鼓	じょうなんひのきみだ いこ		3月26日	火の君総合文化セン ター	熊本市との合併を記念して、城南町の火の君太鼓が初の定期公演を開く。同団体は1993年に8人で結成。現在の会員は小学1年から57歳まで約45人で、県内外で活動している。これまでは5年ごとに公演してきたが、合併をきっかけに今年から毎年開くことにした。【2010.3.22熊日】				
68	熊本市	植木町清水甲区	清水神楽	きよみずかぐら		11月23日	菅原神社	秋季例大祭で同神社に伝わる神楽を子どもたちが奉納。同神社は創建から460年ほどの歴史がある。神楽は明治時代初期、氏子が熊本市の世継宮などで学び、現代まで伝えている。子ども神楽は6年前、担い手育成を目的に結成。山本小の6人が、同大祭や正月など年7回奉納する他、同小の学習発表会などで披露している。この日は11ある舞のうち、三つを子どもたちが受け持ち、住民約150人を前に披露。【2013.11.26熊日】				
69	熊本市	奥古閑町天明地区	天明濡いない節	てんめいがたいないぶ し		11月15日		天明地区の干拓労働歌。近年はほとんど歌われることがなくなった「天明濡いない節」が、住民らの調査で復活。同市奥古閑町の市天明総合支所であった文化祭でお披露目された。天明一帯は、銭塘地区が約730年前に、海路口地区が約170年前に干拓地として開かれた。長年の干拓や開墾作業など、当時の厳しい労働の中で生まれたとされるのが「いない節」。近年は廃れたが、70歳以上の住民の中には口伝えて歌うことができる人がいるという。「いない節」の復活作業は、今年7月、天明文化協会が文化庁の「地域文化芸術振興プラン推進事業」に申請し、来年3月に文化イベントを開くことになったのがきっかけ。公民館などで民謡や三味線を教えている甲斐ノリ子さんが、地域の高齢者約30人に聞き取り、歌詞や楽譜を完成させた。同日の文化祭では甲斐さんから15人が歌と三味線などを担当。当時の苦労を思わせる「どうして新天地にや 来たろれんたい(きたのだらうか)」などと歌った。来年3月の文化イベントでは踊りも復活させ、地域の太鼓などとともにミュージカル風に演出する予定。【2009.11.16熊日】				